正しい知識広げ偏見なくそう

医療対談　てんかんを考える

てんかんは日本人の100人に1人が患っているとされ、小児から高齢者まで誰もが発症する可能性がある脳の疾患です。新型コロナウイルス感染拡大の影響が広がる中、てんかん診療の現状や課題、感染対策の在り方などについて、広島大病院の専門医が話し合いました。（コーディネーターは広島大副理事・山内雅弥さん）

[illegible]てんかんセンター長

飯田　幸治さん

いいだ・こうじ　1990年広島大医学部卒。カナダ・トロント大小児病院留学。2014年から現職。

広島大病院感染症科教授

大毛　宏喜さん

おおげ・ひろき　1991年広島大医学部卒。米国ミネソタ大大腸外科留学。2010年から現職。

コロナで悪化の例なく　飯田さん

受診体制の連携強化を　大毛さん

―新型コロナウイル[illegible]の影響で、受診を[illegible]さんも出ているようで[illegible]

大毛　新型コロナ[illegible]約10カ月が経過し、[illegible]機関では、待合室で新[illegible]感染者が出るという[illegible]ません。流行の初期段[illegible]療従事者が感染者の[illegible]染した例はあるものの[illegible]の医療機関でも、呼吸[illegible]発熱などの疑わしい症[illegible]患者さんには安全に[illegible]環境が整っています。[illegible]の態勢も充実してき[illegible]大のリスクは減って[illegible]

飯田　てんかん診療[illegible]落ち着いている患[illegible]九州など県外か[illegible]の場合、本人や家[illegible]期検査を延期する[illegible]ましたが、特に大き[illegible]ませんでした。てん[illegible]本は服薬で、抗てん[illegible]で180日分を処[illegible]発作の状態に応[illegible]度の通院も可能で[illegible]必要な場合は感染対策を徹底した上で対処したため、治療に遅れはありませんでした。

―新型コロナはてんかん[illegible]状に悪影響を与えますか。

飯田　てんかんは脳の[illegible]疾患であり、新型コロナ[illegible]関係はありません。症状が[illegible]着いている患者さんが、新型コロナ感染で悪化した事例はありません。ただし、発熱で発作が誘発されやすい場合などは[illegible]です。てんかんよりも、ほかのリスク因子の方が問題です。

大毛　厚生労働省は新型コロナが重症化するリスク因子として、65歳以上の高齢者や慢性閉塞性肺疾患、糖尿病、高血圧などを挙げていますが、そこにてんかんは入っていません。

―てんかん治療で課題と[illegible]れていることは。

飯田　てんかんは初期[illegible]診断が難しいにもかかわらず、日本てんかん学会専門医は広島県内に15人しかいません。てんかんの知識や経験の豊富な医師が少ない地域もあります。患者さんを診療する医療機関は最初に診る1次診療（開業医）、2次診療（県内の[illegible]院）、外科治[illegible]のできる3次診療（てんかんセ[illegible]ーがあり、[illegible]者のネットワーク強化に取り組んでいます。

大毛　かかりつけ医（開業医）との連携が大切です。新型コロナに関しても感染が疑われる場合の相談先は、保健所や相談センター、地域の身近な医療機関が中心になりました。てんかんも新型コロナも、適切に[illegible]診できるネットワークづくりが求められます。

飯田　当センターでは、てんかんの診断で悩む全ての患者さんに適切な医療を提供しようと、6月か[illegible]ンライン診療を始めました。かかりつけ医を通して予約を受け付け、画像データや診療記録を事前に提出してもらいます。診療当日はパソコン画面を通じて患者さんとかかりつけ医から症状を聞き取ります。このほか、セカンドオピニオンを求める患者さんにもオンラインで対応します。

―患者への差別や偏見も、共通する問題です。

飯田　偏見の背景には疾患への無理解があります。てんかんは脳の慢性疾患で、原因は交通事故による後遺症や脳梗塞、脳卒中、認知症の場合もあります。それなのに、てんかんは生まれつきの特殊な病気だと思い込んでいる人が非常に多いのが現状です。

大毛　新型コロナの場合は感染者や医療者へのバッシングが問題になりました。やはり知識の不十分さから、他人に対して不寛容になるものと思われます。「自分だけは感染しない」という間違った認識もあるのかもしれません。

飯[illegible]の現場で、てんかんの発[illegible]ると、「2度と発作を起こさ[illegible]」という医師の診断書の[illegible]出を求められたり、解雇されたりしたという話を聞きます。しか[illegible]脳卒中や低血糖発作で倒れた[illegible]にそのような対応をするでしょうか。[illegible]いれんだけでなく、ぼうっと一点を見つめたり、周囲をうろうろ[illegible]たりするといった多様な発作があるため、周囲から誤解を受けやすいのも問題です。

大毛　偏見や誤解を解消するためには、正しい情報の発信が欠かせません。

飯田　広島ではてんかんへの理解を[illegible]める活動に力を入れており、[illegible]治療法などを知ってもらうための「市民フォーラム」を毎年開催。今年で11回目になります。

大毛　新型コロナの主な感染経路は二つしかありません。せきやくしゃみ、会話時などに唾液と共に飛び散るウイルスを吸い込む「飛沫感染」と、ウイルスが付着した物に触れた手や指で口や鼻を触ることで起こる「接触感染」です。感染を防ぐにはマスクを装着し、鼻と口を覆うのが基本です。その上で「3密」の回避と手指消毒を徹底することが大切です。こうしたエビデンス（根拠）に基づいた情報を、分かりやすい形で発信する必要性を感じています。感染予防の基本を徹底しておけば、屋外なら密をそれほど気にしなくても大丈夫です。楽観視は禁物ですが、過剰反応も慎むべきです。

―ありがとうございました。

[illegible]てんかん

大脳の神経細胞が異常に興奮し、突発的な発作を繰り返し起こす慢性疾患。全国に約100万人の患者がいる[illegible]の幼児と70歳以上の高齢者に発症者が多い。発作の症状も多様で、小児にはひき[illegible]がよく見られる。治療は薬物療法が中心。てんかん薬は現在、20種以上ある。難治性の[illegible]てんかんと診断された場合は手術を行う。

11月1日に市民フォーラム2020「てんかんを考える」

広島大病院てんかんセンター長の飯田幸治さんらを講師に迎えた市民フォーラム2020「てんかんを考える～コロナ禍に向き合うために～」（中国新聞社主催）が11月1日13時30分から、広島市東区の広島県医師会館医師会ホールで開かれます。聴講を希望される方[illegible]入場無料。定員150人。オンライン視聴もあります。応募多数の場合は抽選になります。

はがき　〒730-0854 広島市中区土橋町7-1　中国新聞ビル3階
メディア中国 医療セミナーチーム「てんかんを考える」係
FAX　082-232-7977
eメール　event-2@media-chugoku.jp
問い合わせ　☎082-236-2860（土日祝を除く9:30～17:30）
広島大病院てんかんセンターへの問い合わせ　☎082-257-1719

郵便番号、住所、名前、年齢、電話番号、メールアドレス、てんかんに関する質問（あれば）、参加方法（来場かオンライン視聴か）を明記してください。

※質問は講演や質疑応答の参考にさせていただきます。

※個人情報は、聴講券の発送と抽選に漏れた方への通知（応募多数の場合）のために利用し、メディア中国が責任を持って管理します。

専用サイトからも申し込みできます。

右記の2次元コードを読み取ってください。

企画・制作　中国新聞社地域ビジネス局